

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所
大北 秀雄

(9) 日常生活を見る

高齢者になって

プラス指向の時間は何か

楽しい時間なのか、

有意義な時間なのか、

積極的な生き方の時間なのか

マイナス指向の時間は何か

どうでもよい時間なのか

息をしているだけの時間なのか

早く迎えに来てくれることを考えている時間なのか

などいろんな思考が走ると思いますし、その時その時で状態が変わることが当たり前の生活だということも事実です。

楽しく生きることの難しさがあると思いますが、そのことを整理することも大切なことですし、そのことをいいかげんにすることは問題です。

よく聞く話ですが、生活するのに何か目的持つと疲れてしまい、制約を受けてしまうことになると思っている人がいますし、毎日を適当に過ごして行くことで十分ですし、考えても時間がとられるだけで、そのことが無駄なように感じる人が多いと思われます。結果的に目的を持たない生き方で、それを意識することなく毎日を過ごしているだけの人が存在します。それがベターな生き方だと思い、あえて毎日を何気なしに、時代の流れにのまれながら、なにげなく時間が経過して行くことを感じながら、それを自然と思い、そのことが大切な生き方だとし、毎日を簡単に生きる方法として、あまり考えないように、悩まないように、何とかなるさという精神で生きることが大切とし、あえてそのことが、簡単な人生を継続させることのできると定義して毎日を生きようとしている人がいます。

現実には、生活の内容を毎日感じようと感じないでも、目的を持って生きています。目的を持って、今生きている時間・明日の時間の保障がどうされているのか、社会において保障されているのか、どこにおいても保障されているのか、そのことは自分の周り、社会に理解されているのかなどが判かることで明確になると思いますし、個人として、楽しいと感じながら生活をするのが一番ですし、前に向かって進んでいく時間と、どのように向き合っていくかが問題と感じると思います。そのことが生きることであり、人生を送ることになります。